

私の一冊

一般教育等 林恵嗣 先生

佐藤俊著 『主将戦記 宮本恒靖』

小鹿図書館 : 783.47/Sa 85 (小学館)

この本は、2002年に日本と韓国で共同開催されたサッカーの世界カップから2005年にガンバ大阪がJリーグチャンピオンになるまでの期間の宮本恒靖選手(現在レッドブル・ザルツブルグ所属)について書かれたもので、その期間に宮本選手がどのようなことを考えていたのかが分かります。その期間中にあったゲームの裏話なんかも出てきますし、難しい話でもありませんから気軽に楽しく読める内容だと思います。

さて、その宮本選手ですが、彼は身体能力が特に優れているわけでもなく、プレーを見ても「本当に大丈夫なのかな？」と思うこともありますが、彼はディフェンスの中心選手であり、日本代表チームにおいても欠かせない存在となっていたことは周知の通りです。では、なぜ彼がチームにおいて欠かせない存在となっていたのか。その答えとして、判断の早さやカバーリングの巧さなどが挙げられますが、よく言われるのが彼の優れたキャプテンシーです。そのキャプテンシーはゲーム中のみならず、ゲームを離れた部分においても発揮されており、現在の日本サッカー界において、この点に関して彼の右に出る者はいないのではないかと思います。この本を読むと、それがよく分ると同時に、何が彼の優れたキャプテンシーの基礎をなしているのかも想像することができます。

私がこの本を紹介したのは、学生にその部分を考えてもらい、そして自分自身についても考えてもらいたいためです。私はこの本を読んで、彼の向上心、そして責任感の強さが、優れたキャプテンシーの基礎をなしているのではないかと感じました。

強弱はあるものの、向上心や責任感は誰しも持っているものです。そしてこれらは自分次第で大きく変化するものでもあります。私自身、この10年間でそれらは大きく変化したと感じています。学生のみなさんと同じ年齢だった頃の自分と今の自分とを比べてみると、明らかに今の自分の方が向上心や責任感が強くなっています。それはなぜかと考えると、学生と社会人という立場の違いもありますし、年齢の違いも当然あります。しかし、何よりも自分を成長させてくれた人の存在、また自分に期待をしてくれている人の存在があり、そういった人たちに対して失礼なこと、そして失望させるようなことはできないという気持ちが、昔と比べて今は強いからだだと思います。今、私はそのように考えているため、自分がよければそれでいいという考えでは

なく、周りの期待を裏切らないように、また失望させないようにしなくてはならないと考えています。そして、そうすることが自分を育ててくれた人に対する恩返しだと思っています。こういう考え方ができるようになったのは、大学や大学院での様々な経験、また周囲の環境などによって自分が成長できたからでしょう。

私はこの本を読んだ時、自分自身について考え、また宮本選手と自分を比較してみました。そうすると、上にも書きましたが、昔よりも今の方が私自身の向上心や責任感は強くなっていると言えるのですが、宮本選手と比較すると、まだまだ自分は彼と同じレベルにはないと感じました。宮本選手が最終目標となるのか、それとも通過点なのかは分かりませんが、少なくとも自分が目指すべき位置にいることは間違いないと思っています。この本を読んだことで、宮本選手が持っている向上心や責任感の強さは私の一つの目標となり、またそこに到達するためには自分にもっと厳しくならないといけないと考えるようになりました。

今回紹介した本のように、何かの分野で結果を残してきた人について書かれている本を読み、では自分はどうかののだろうか考えることで、自分自身を知ることになり、そして自分はどうすべきなのかということ学ぶことができるように思います。そういう意味で、読書という行為は自分を成長させてくれる手段の一つなのではないかと思います。今回紹介したこの本が、自分自身について考えるきっかけとなったり、また自分を成長させるきっかけとなったりしてくれれば嬉しく思います。